



7月よつばだより

富田林市立津々山台幼稚園長 小野 扶美彦

「先生、心がどこにあるのかわかったで一。」

中学3年の卒業を目前に控えたある日、彼は私を呼び止めて、そう言いました。
決してまじめな生徒とは言えない彼です(笑)。よく先生たちから注意(怒られる)されていた。友だちとのトラブル
もしょっちゅう。人の話も聞いていない彼(笑)。

彼が中学1年生の初めに『心はどこにありますか?』(頭を指さして)『ここですか?』(胸を指さして)『ここか
な?』『それはどんな色をして、どんな形をしていますか?』3年間でさがしてみましよう」と確かに生徒集会で話
しました。

「3年間、ずっと心はどこにあるんか考えてた。」と彼は言います。
続けて、「最初はどこにあるんかわからなかった。…けど…、心は人と人の間にあるんやと思う。相手によって、色
も形も変わるんやと思う」といつになくまじめな顔で話します。「1年生の最初に小野先生にその質問されたこと」
「それから3年間ずっと考えていたこと」「どこにあるんか探したけどわからなかったこと」「友だちとけんかしたり、
クラブでもめたこと。」「そんないろいろな経験をして、わかったこと」など、一生懸命静かな声で話してくれました。

驚きです。…あのときから彼がいろんな場面で、それを考え続けてくれていたこと。すごくうれしかったです。話
を聞いてくれていたこと、卒業を前にちゃんと宿題をしてくれたこと(笑)。

私が投げかけた言葉で一生懸命考えてくれている生徒の存在。先生という仕事の責任の重さを感じました。
正解はないかもしれないけれど、私も心は人と人の間にあると思っています。

園の子どもたちは毎日のように、物の取り合い、おもちゃの取り合いをします。ひっぱりあいです。先生はすか
さず「今、〇〇ちゃんが使っているからね」「貸してほしい時は『貸して』って言うんやで」「〇〇ちゃん、貸してくれ
たよ。やさしいね。『ありがとう』っていうねんで」とお話ししてあげています。

自分だけの世界から、友だちとつながりだし、そこで心を育んでいきます。その成長はすごいです。自分以外の人
を意識しだし、自分の思い通りにならない時の心の持ちようをあんな小さい体で考え出しています。

月曜日の登園時、「園長先生、金曜日お休みしたけど、からだだいじょうぶ?」と尋ねてくれます。うれしいです
(涙)。体の心配をしてくれるやさしい園の子どもたちがたくさんいます。もう3年目なのですが、5月下旬から8月
中旬の間の金曜日、お休みを取って、ある大学の教育学部で、小学校、支援学校、幼稚園の先生をめざす大学生
に、教員採用試験対策講座の外部講師として、面接や模擬授業の講義、演習をしています。園の子どもたちに会え
ないのはとても寂しいですが、将来、教職の道に進みたいという大学生に教えることで、逆に刺激をもらって、元
気もりもりになり、園の子どもたちと遊ぶエネルギーに変えています(笑)。

園のあちらこちらで、かわいらしい色の「こころ」が、どんどん大きくなっていくのが、見えます。
自分らしい色で、大きさで…。